

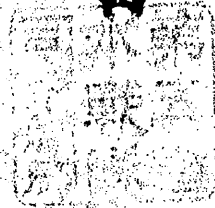
5000

武功圖書

軍極海軍機密第一號二九

昭和十七年七月十日

七月十日發行



第五潜水戦隊戦闘詳報 第七號

第五潜水戦隊第一期第二期作戦
自昭和十七年四月下旬
至同 年七月十日

第五潜水戦隊司令部

九	八	七	六	五	四	三	二	一
明	内地	各	一	配	編	整	内	經
地	海	股	備	制	備	滿	地	務
帰	全	下	兵	變	給	補	帰	及
還	過	戦	進	更	及	還	過	下
	概	経	出		打	概	概	計
	要	過			合	要	要	畫
		概			養			
		要						

(目次)

2000

第六艦隊機務第三三號、六四

昭和十七年八月十六日 機務香取

第六艦隊副官

海軍武官調査委員殿

送付

先遣部隊戦明詳報

第六艦隊戦時日誌

八號

六月分

各一部

終

17 8 20
機務

(二六、三 藤井印)

海軍

第四、
第五、
第六、
戰果及我が兵力ノ現状
功績
所見

別紙第一、
別紙第二、
別紙第三、
主要な達報告等
機密性達報告第一、
潜水艦出入港ノ開スルニ
所屬軍港出港前搭載量
根間打合費等

別冊
戦訓所見第三、第四號

(目次終)

目一

第五潜水隊隊務詳報第七號

第五潜水隊隊務司令部

第一段隊第一期第一期中(自昭和十七年四月下旬)

第一 一般情勢

大東亞戰事第一段下戦大御後威下海陸將兵一致奮闘
 ニ依リ極メテ順調ニ進ミ過ラシキ間中勞頓亦乏於テ大戦
 果ラズ與テゲタルヲ始トシ三月ニハ早クモ菲島馬來蘭
 ノ殆ソド全部ヲ我が手ニ收メ四月下旬南方部隊第二次
 印度洋戦動下戦ヲ以テ南方方面ニ對スル下戦一段落ラ告
 グルニ至レリ

茲於聯合艦隊四月十日ヨリ第二期戦役ニ移リ南方部隊ヲ以テ南方要域ノ掃蕩戦ヲ続行シツツ決戦兵力大部ヲ東西面ニ集中シ米ノ作戦據英及米軍線ノ覆滅遮断ヲ圖レコトトナレリ

而シテ第一期下カリ於テハポルトモレスビーノ攻略ニ關聯シテ五月八日珊瑚海海戦トナリ大ナル戦果ヲ收メ得タルモ之ガ爲ポルトモレスビーノ攻略下カリテ第一期ニ讓レコトトナリタル外概テ計畫通り進捗シ決戦兵力ノ整備充實ヲ終リ五月十日第一期下カリ入レリ(聯合艦隊電令下第一五一號)

第二期下カリ六月七日ヲル日ト定メ其ニ乃至三日前ヨリ空襲ヲ開始シ六月十日ミッドウェイノ及パルマーラン西部要地ヲ攻略スト共ニ爲リ得レシ敵艦隊ヲ誘出シテ之ト決戦スルノ企圖ヲ以テ聯合艦隊ノ大部ヲ攻撃ケテ同方面ニ集中

セレガ六月五日、ミッドウェー附近に於て彼我機動部隊ノ航
 空母艦相撃、トナリタル為敵主力捕提撃滅、機動部隊又
 ミッドウェーノ下ヲ延期止ムナキニ至レリ、且シコリス、
 方面に於テハ六月八日概不豫定通リカシ及、アツシク攻略ニ
 成功セリ

第六、任務及作戰計畫

一、第五潜水戦隊任務

聯合艦隊第一期作戰兵力部署に於テ第五潜水戦隊は
 ハシラタル任務ハ第五潜水戦隊ト共ニ日頃迄「ミッドウェー」
 ノハワイ間ノ配備ニ就キ攻略部隊ニ協力スルト共ニ攻略要
 地防備概成、該同地ヲ基地トシ敵機動(奪回)部隊ノ

二作戦計畫

捕提以撃ニ仕スニアリ
 而シテ當初先遣部隊ノ作戦計畫ハ第三潜水隊及第
 十三潜水隊ヲ夫々ヨロイシ及ヨシツド空一ノ監視ニ充テ第
 五潜水隊ハ其中間ニ待敵スルノ案ナリレガ寡少ナル
 兵力ヲ更ニ分散スルコトハ不利多カルベキヲ考慮シ第三
 潜水隊ヲ以テヨロイシヨシツド空一ノ中間ニ敵解配備
 ヲ構成スルコトニ改メラレ（先遣部隊艦令下第五〇七三六
 號第六潜水隊機感第九番艦）其位置ハ機感艦令下
 隊令令下第一四號辰リ夫々甲乙ニ敵解線トシテ標津
 ヲ示サレタリ

前項ノ任務ニ基テ作戦計畫ハ第三潜水隊信濃令下

第一號及機密先遣部隊第... 潜水部隊... 命令... 第一號...
ニシテ之が策定ニ當リ考慮セシ事項及之關聯シ計畫
又ハ準備セシ事項ハ如シ

敬開郵備ヲ「ミッド空」... 中間ト假定シ
乙散開位置ハ五月二十日先遣部隊電令... 第七號ニ
依リ始メテ承知セリ各基地ヨリ向配備ニ至ル距離ヲ
檢討スルニ若シ内地ヨリ直接ニ赴クモノトセバ... 横須
賀ヨリ出港スルモノトシテ要シ郵備兵到達後ノ行動力
不足ニシテ... 難キヲ以テ前進基地ヲ左
ツエリ... 於テ補給シタ後郵備兵進出ノコトトシ其補給
及先遣部隊司令部ト連絡ノ為旗幟兼母艦ハ作力期間
中ヲ左ツエリ... 在レコトトセリ

(四) 潜水部隊整備ハ地潜水部隊ノ整備遅延セル影響モアリ

(1)

各艦共豫定ヨリ数日遅レタル為内地ノ在ビリンノ間ノ向
 航ニ海軍模倣許シ良リノ高速度ヲ用フルトスルニ配備失到着ハ
 大部分ハ日部ハノ頃トナルコトヲ豫想セラレタリ
 ノ在ビリンヨリ配備失迄ハ燃料消費ノ關係ハ平均速力十
 一節トシテ計算セリ

聯合艦隊兵力部署ニ依リテ潜水艦隊ノ攻撃要地附近
 哨戒ハ防着概成迄トアル處第三期兵力部署ニ於テハ南方
 部隊ニ編入サル豫定ナル關係モアリノ揚子江ニ對スル
 解釋区々ニ立リテ以テ先遣部隊ヨリ聯合艦隊ニ照會
 (青千舟第六潜水艦隊第七三番電燈會、千六百聯合
 潜水艦隊第六八番電燈會)ノ結果四月ト豫定スルコ
 トヲ得タリ

而シテ當隊型潜水艦行動力ハ收小ナルミナラズ各艦

区々ニテ散解配属、移動状況、如何ニ依リテ、何時行
 動力ノ限度ニ達スヤ豫測シ難キヲ以テ各艦ヨリ燃料
 残額ヨロモトナリタル時機ヲ報告セシメ之ニ依リ當時ノ
 戦況ニ應ジ配属ヲ撤スル時機及帰投基地ヲ指示スル
 コトトセリ、帰投基地ノ第一案横須賀、第二案刀ヶ岳リン
 ト豫想シタリ

（二）
 伊號第一潜水艦味方陸攻ニ誤爆セラレタル事後ニテモアリ
 又整備時機ノ關係上、軍艦又ハ小編隊ニテ行動スル潜水
 艦多キヲ以テ味方識別ニ特ニ意ヲ用ヒ、充分ノ明瞭ナル標
 識ヲ表示スルト共、第六根拠地跡其他關係各部トノ
 連絡ヲ密ニシ萬遺感ナキヲ期シタリ之ノ關係第六根拠
 地跡ト協定シタル也、別紙第六ノ如シ

第三 經過概要

内地帰還

(1) 印度洋方面潜水艦

當深潜水艦八隻戰前為レ得度リ整備修理ニ努メ出
 征時ハ各艦完備状態ニ在リモ何カモ艦齡九年乃至
 十三年ニ達スル老艦トシテ印度洋方面戰三箇月ニ亙
 ニ及ビテハ各艦共故障續出シ當初基地ニ於テ整備期
 間ハ行動後概不_レ過問乃至十日計重トリレ_レ拘ラス_二週
 間ヲ經過ス_レコト少カラス甚_レキニ至リテハ一箇月以上ヲ要ス
 ルコトアラリ。又彼南基地ハ第三工率部ノ熱心ナル
 努力依リ斯_レ状況ニ於テ期待_レ得_レベキ最大限ノ修理
 能力ヲ發揮_レ得_レタルモ補用品其他ノ關係上基地在_レ海

期間延長ノミ依リテ完キル修理ヲ行ヒ得ガレコトアルヲ
 以テ時機有次第逐次潜水艦ヲ内地ニ帰還セシメテ完キル
 修理ヲ行フコトハナクハ^ハ繼續上緊要ナレト認メラルルニ至リ
 斯際三月二日第三艦隊機密第六五番艦ニ依リ第一潜水
 艦ヲ三月中旬印度洋方面ニ増派セラルコト明カトナリ
 タレバ三月六日五潜水艦機密第五九番艦ヲ以テ三月中旬
 以後當隊潜水艦ヲ逐次内地ニ帰還整備從事セシメ
 度旨南方部隊^ニ對シ意見具申ラレ三月十日南方部
 隊司令第一三艦隊^ニ基キ三月十四日先ヅ第三潜水艦ヲ
 出發セシメタリ

然レ三月二十一日ニ至リ聯合艦隊機密第六五六番艦ニ依リ
 第五潜水艦ヲ五月中旬以後^シツド空^ノ方面^ニ對シテ參
 加セシメラル旨内報アリタルヲ以テ南方部隊司令部ト打

5

合上第還年機ヲ若干艦カレトシテ表自程ニ依リ
 各艦逐次彼南發佐世保津港ニ帰投セリ

伊六五	三月十八日	三月十四日	三月十五日	
伊六六	三月二日	三月十五日	四月一日	長外自
伊五九	三月十日	三月十五日	四月一日	
伊六二	三月十六日	四月二日	四月十日	
伊六四	三月十七日	四月二日	四月十日	

(四) 第十九潜水隊

第十九潜水隊ハ第四潜水隊馬シ外哇南方交通彼處
 ニ從事シ三月下旬相次イケルスターリング海ニ帰投セシ
 カ三月十日附戦時編制改定ニ依リ當隊ニ編入セラレリ
 同隊モ亦「ツド空」方面ニ参加スルモノナル處其艦

鐵ハ前諸隊ヨリモ更ニ大ニシテ主蓄雷池換裝其他修理
整備ヲ要スル莫多カリシヲ以テ九隊戰術密弟三西番電
依リ三月十三日ヲターリング港發三月二十日兵軍港ニ歸投
セシメタリ

〇〇 旗幟及舟楫

當隊司令部ハ潜水艇逐次内地帰還印度洋再進出場
合ハ彼南基地ニ殘留ノ計畫ナリガ行動隊定更更セラ
レタルヲ以テ甲號弟六西潜水艇乘艇帰還ノ豫定ナ
リシ處ニ可下句以來馬來部隊ニ編入中ナリシ由良ヲ
四月十日附當隊ニ復歸セシメラルトナリタルバ同日之ヲ
彼南航航セシメ將旗ヲ之ニ移レ翌日同地發四月二十日
海軍港港歸還セリ

母艦ヲ下^レルヤ^ハ三月七日皮南着内此ヨリ輸送
任務ヲ終了シタル後予ニ高地發四月二日海保軍港
帰着セリ

ニ整備補給及打合

(4) 帝國海軍ノ初陣タル西一月間ノ戦ハ戰略戰術上ノミナラ
ズ整備補給其他戰務上ニモ特別ノ重要ナル戰訓ヲ
得タルヲ以テ次期ノ戰ニ於テ之ヲ可入的具體化スルト共ニ
各艦ノ修理改造ヲ促進スル為メ成ルルノ速ニ手配ヲ為
シ置クヲ必要ト認メ三月十日參謀海軍少佐中川政
雄ヲ空路帰國セシメ此等事項ヲ關シ中央當局ノ聯
合艦隊及吳所世保ノ各部下打合ヲ行ヒシメタリ
四ノミッドエ^ーノ戦ニ於テ當隊ハ第六艦隊ノ麾下ニ編入セ

修理	重油タンク漏油部	重油タンク分解検査	海水タンク検査
区分	事	項	施行艦
			各艦

上記計画ナリレ處第六艦隊旗艦ハ四月中旬呉發南
 洋群島方面ニ進出ノ豫定ナリレヲ以テ四月三日參謀海軍
 少佐大塚 范ヲ空路派遣シテ鄂州ニ聯合艦隊及第
 六艦隊ト打合ラ行ハシメタリ
 (ハ)潜水艦整備ノ夫々所屬軍港ニ於テ実施セルガ用號第卅
 九潜水艦ハ四月十日附呉ニ轉籍トナリタルヲ以テ在在係
 整備完成ノ上五月四日在在係發同五月六日到着セリ
 各潜水艦ガ内地在洵中施行セル修理所設改築事項
 主として在在如シ

新設	改造				
自動懸吊装置残飯処理装置	燃料應急増載タンクの新設	一部補助タンクラ真空タンクに改造	L式音響測信儀ヲ九式に換装	九式送信機装備	彈藥庫搭載能力増加
					掃除ポンプ電動機電機子換装
					シリンダー換装
					船主機機附屬空気圧縮機ラ中付圧
					炭酸瓦斯冷却機換装
					主蓄電池換装
					高圧空気圧縮ポンプ換装
					主排水ポンプに總分解検査及電機子換装
	162 164 165 166	156 157 158 159 162 164	165	162 164 165 166	156 159 158 159 162 164
					166
					159
					156 157 158 165
					162 164

健康灯、晝光放電灯、ロビニ、處置装置
照明灯、貯米装置、轉輪用電機、交流倉
電機増備

各
機

補給艦外所屬軍港出港前滿載、前進基地、ロビニ、ロビニ、於
于母艦より更ニ補給滿載スルコトセリ。詳細別紙第三ノ通
而于吳在泊潜水艦ノ補給其他ノ要務ノ為母艦兼了也
如三月八日、四月十八日、五月五日、吳於海保帰
着セリ

一、奥雷八九式奥雷不足ノ為、第十九潜水艦各艦が平均約
十二本ヲ有スル外、同テ六年式奥雷ヲ搭載セリ
伊號第六十二、六十四潜水艦ノ戰時定數奥雷搭載設備ヲ
本洋前急造シタル為、發射管ヨリ引込検査不便ニシテ故
障頻發、算多キ六年式奥雷ヲ滿載スルコトハ却テ戰闘

三人員ノ交代休養

の今次内地帰還時及其前後に於て人員交代ノ事ニモ尤

如レ
幹部

(一) カラ低下スル虞アルヲ以テ聯合艦隊司令長官ニ共申ノ上
定數ニ本ヲ減載スルコトセリ(海陸戦機各第西九六番電)
(二) 糧食ハ母港出港時ヶ月分搭載セリ、特種糧食ヲ關シテハ
戰訓基本キ所管軍需部ノ積極的協力ヲ得テ前行動時
ニ比シ著シク改善セラレタリ

職	名	交代日	前	後	新	後
第十九潜水隊司令	若下志やね丸	艦長	五月七日	海軍大佐村瀬頼治	海軍大佐大橋竜男	
				海軍大佐太田信之輔	海軍中佐小野良節	

伊勢第六西潜水艦長	四月五日	海軍少佐小川綱嘉	海軍少佐新名嘉彦
日浦第六西潜水艦長	五月八日	海軍少佐吉留善之助	海軍少佐田中芳喜天

潜水艦乗員補充交代率(百分比)

准士官以上	二六	三潜水隊	一九潜水隊
下士官兵	一五		

印度洋に於ける潜水艦乗員補充に困難を呈し、艦に懸念を有し、時局次第に補充班員の一部を志願者から補充変更を得る必要が

下補充班員を準備し得たり

潜水艦乗員休養期間の短縮に際し、各部隊の協力が必要と見込まれ、泊日数比較的長期に亘るため、略満足すべきポイント認めらるる

四編制ノ変更

三月十日附第五潜水隊解隊セラレ伊號第六十二潜水艦、第五八潜水隊、伊號第六十四潜水艦、第五十潜水隊ニ編入セラレレガ
四月十日ニ至リ第五十八潜水隊モ亦解隊トナリ、伊號第六十九潜水艦、第五十九潜水隊ニ其、他、一艦、第五十潜水隊ニ編入セラレタリ
三月十日附第五潜水隊ノ當隊ニ編入セラレタレト前記ノ如レ
五月九日附ヲ以テ旗艦由良、那珂代艦トシテ第四水雷隊ニ編入セラレタレヲ以テ同日旗艦ヲリホフ志第百九十九ニ変更セリ、大海城密
第九十六番艦)

右ニ伴ヒ旗艦トシテ伊號第五潜水艦ヲ當隊ニ編入ノ豫定ナリ
シ處、昔、第六潜水隊、旗艦伊號第六十八潜水艦、ヨールヤル策
方海軍ニ於テ第五十八空艦隊陸上攻撃機、為誤爆セラレ大破シ

五 郵船長官出

内地至前進基地

内地出港整備未了ノ伊號第六六、第六四潜水艦ヲ除キ五月
十ヨリ豫定セルガ五月八日ニ至リ第十九潜水艦各艦同隊機密

10

タルヲ以テ伊號第五潜水艦ヲ同隊旗艦ニ変更セラレルコトナリ
（聯合艦隊機密第四九番艦、大海機密第四六三番艦）十六日附發
令セラレルト同時ニ伊號第八潜水艦ヲ當隊ニ編入セラレタリ同艦ハ
右損傷ノ事修理ノ為 月 日以後呉ニ在リ本件ヲ第一参加
セザリキ
尚伊號第八潜水艦ヲ除キ當隊各艦五月十日附ヲ以テ艦名ノ
数字ニヨリカブルコトニ改メラレタリ（軍務機密第六九、七三番艦）

第三番電ノ通整備ニ日遅ルコトナリ第三潜水隊モ
 亦各部修理ヲ要スル所多カリシヲ以テ何レモ出港ヲ延期シリ
 亦下志ヤウヲ及伊號第六五、六潜水隊ハ五月十四日三
 〇〇時保ヲ第十九潜水隊ハ同時刻吳ヲ夫々出港セリ然レニ
 伊號第五潜水隊ハ吳出港後危航ニ機械隊屬掃除中
 故障ノ為吳ニ引返シ修理上十九日二〇〇時出港セリ、伊號第
 六、六、四潜水隊ハ整備上事遅延ニ為
 五月十六日西〇〇時保出港ノ豫定ナリレモ伊號第六
 十二潜水隊ハ管制盤故障ノ為更ニ遅レ十八日西〇〇時出
 港ノコトナレリ、伊號第六四潜水隊ハ五月十六日西〇〇
 時保出港ヲ報ジタル後(同機械隊第三番電)豫定期日ヲ
 過ブルモ目的地ニ到着セザルヲ以テ五月三十日高峽機械隊第
 番電ヲ以テ關係各部ニ照會シタル處に鎮機隊第八四番電及

五根松泰弟四の六番艦、返アリタルノ後者、同日時時號其前
 者ニ依リ十七日〇五〇迄ハ無事航行ヲ続ケ居リタルヲ知リ
 得シレニ止マレリ、亦後ノ各艦ハ概テ喫調ナル航海ヲ續ケ、伊號
 第五十九潜水艦が五月二十日北緯二十九度三十分東経一三六度
 二分於テ敵潜水艦ノ雷撃ヲ受ケ、五本被雷テシテ受ケタル外
 何事モナク、尾ノ通下ノ左舷ニ入港セリ

リお丸、伊六五、伊六六、伊六六、五月十四日〇九〇

伊一五六、伊一五七、伊一五八、伊一五八、同日〇八〇

伊一六二、伊一六二、同日〇八〇

伊一五九、伊一五九、同日〇八〇

五月二十日先遣部隊電令、伊第七六號、接ス、當隊ノ配備
 豫想ヨリモ約六〇哩遠キコトトナリタルヲ以テ各艦為レ得ル
 限リ入港期ヨリ繰上ブルニ努メタルモ、當隊機密第五七番艦

海上模様ニ依リ増速用心ヲニ付ズ入港期日平均一日ヲ繰上
得タルノミ

(四) 前進基地ニ於ケル整備補給

風波ニ抗シテ終始相當ノ速力ヲ使用シタル爲各艦共重油
タンクノ漏洩スルモ其他小故障ヲ起セシ艦多ク燃料清
水・糧食等ノ補給ヲ行ハ傍ラ極力之等ノ修理ニ努メタルモ
刃左舷リシ基地ノ工作能力ハ母艦ノ夫ト大差ナク之ヲ以テテ
ハ到成見込ナキモノアリ一部ノ艦ハ遠ニ漏油個所ノ修理ヲ完成
スルコトナク出港スルノ已ムナキニ至リシハ遺憾ナリキ
各艦ノ出港日時如シ

出港日時	艦名
五月六日	伊 165
〇〇〇〇	〃 166
〇〇〇〇	〃 156
〇〇〇〇	〃 157
〇〇〇〇	〃 158
五月八日	〃 162
〇〇〇〇	〃 159

(1) 前進基地五配備具

出港開シテハ第六根據地跡トシテナル打合ヲ行ヒ航空部隊
 警備隊等ヲ潜水艦ノ行動識別偵察ニ関シ詳細ニ通
 報シテ味方識別ニ關シ遺遺感ナキヲ期スルト共ニ潜水
 艦自體混濁ヲ避クル為ニ第十一潜水隊、第十二潜水隊
 如ニ夫々航路ヲ指定セリ、
 各潜水艦ハ途中為ニ得レ浪リ高速發揮ニ努メレモ逆風ノ
 為ニ散開線着ノ豫定時機ハ六月三日夜半ヨリ四日早朝ニ
 至ル間(伊號第一六二、一五九潜水艦ハ六月五日及七日午前)
 ト豫想セリ 伊號第六十四潜水艦ニ關シテハ五月三十日ニ
 至ルモ何等手懸ナカリレヲ以テ之ヲ散開線ヨリ除クコトト
 之ニ伴ヒ散開配備ヲ変更セリ(當隊機密第一五三番通)

六ニ敵作ヲ經過概要

の敵陣線配備迄

五月辛巳庚戌豫定ナリレドハフレンケリゲート附近ニ於ケル敵送前嚴重ノ為一日延期レタル後遂ニ取止メトナリタラ以テ六月初頭「ハワイ」ミッドウエー「附近」ニ於ケル敵情ハ通信詳報依リ相尚活潑ナル動キアルヲ想像セラレタル後何等得ル處ナカリキ

「ミッドウエー」作戦ハ豫定通り六月廿日早朝機動部隊「ミッドウエー」空襲ヲ以テ開始セラレドガ逸早ク我々発見セル敵ハ其機動部隊及基地航空兵力ヲ以テ我々機動部隊ニ攻撃ヲ反覆シ次テ我々も亦敵機動部隊ヲ発見之ニ反撃「ワカ」五日午前「ミッドウエー」北西方海面ニ於ケル彼我ノ航空戦ハ激烈ヲカヘタリ

之ヨリ先敵機動部隊を免ノ報レヤ聯合艦隊司令長官ハ「シド空」
 及「リレー」等ニ攻路ヲ時延期シ攻路部隊ヲ遅退セシメタル後各部隊
 ヲ些等ニテ敵捕提攻撃等ニ努ムルト共ニ、第三第五潜水隊ヲレテ
 其東方ヲ扼サシムル如ク内敵艦隊ヲシコトヲ命セラレタリ

(聯合艦隊電令作第五五號向第五六號)

位テ一二〇先遣部隊^{捕提}令レテ第三第五潜水隊ヲ内敵艦
 線ノ南中流カシムル共ニ、第三潜水隊ヲモ其南方ノ敵艦隊
 ヲ流カシメ(先遣部隊電令作第五八四號、第五潜水隊第五二八
 番電)各艦ハ概不六午後之ニ到達得ルモト豫想セラレタリ

(四) 西方掃蕩

五晨ニ至リ我が機動部隊^{捕提}情況判明スルニ及ビ其損害豫想
 以上ニ大ナルノミナラス敵殘存航空兵力ハ相當有力ナルモノト
 認めラレタルヲ以テ(聯合艦隊電令作第五八號)機動部隊ヲ十

四二一)ニ三五五聯合艦隊司令長官ハ、ミッドウェイに攻略ヲ中止ス
 ルニ決シ各部隊ヲ西進スルコトナリタレバ(聯合艦隊司令長官第六
 號)之ニ應ジ六日(四三)先遣部隊指揮官ハ、ヨリ各散開線
 ヲ西方ニ移動シ第三號潜水戦隊ヲ西ニ散開線ニ第十三潜
 水隊ヲB散開線ニ就カシメタリ(先遣部隊司令長官第八五號)
 七月聯合艦隊司令長官ハ敵機動部隊ヲ大島島航空基地域カ
 圍内ニ於テ捕捉致シ滅セントシ各部隊ヲ部署スルト共ニ(聯合艦隊
 司令長官第三三番電)一四。先遣部隊ニ對シ急速西方ニ掃航シミッド
 ウェイ西方ノ敵ヲ攻撃スベク人々ニテ(聯合艦隊司令長官第三三番
 電)西五。先遣部隊指揮官ハ第三號潜水戦隊及第十三潜水
 隊ニテR、S、T散開線ニ就クコトヲ人々ニ(先遣部隊司令長官第
 六號)各艦ハ内ニ散開線ヲ通過シ引續キ西方ニ進撃セリ
 伊號第一六八潜水艦ハ之ヨリ先漂流中ノ敵航空母艦撃沈人命

ヲ受テ七日〇三其ハは路ヲ果セシガ自ラモ亦欠病ヲ受テ奥用
航ヲ命ゼラタリ（聯合艦隊機密第三三番電）

(1) 待敵散開

敵機動部隊其ノ東方ヲ揚子江際ヲ散開線ヲ通過ノ算大ナリト
謀想セラレタルモ先遣部隊厚々作テ入ル（某艦隊不逞ノ開隊上
散開距離過大ナリレ為カ一艦モ之ヲ発見シタルモノナカリキ此間也
ノ部隊モ亦敵ヲ捕捉シ得タルモノナク却テ西進中ノ第七艦隊又ハ
駆逐艦等ガ衝撃次テ敵ノ攻撃ニ依リ損傷シタル等報アリ
八日北方部隊ノキスカラアツク攻略成功ノ報達カニ怒眉ヲ開カ
シムルモノアリタルニミ

八日一〇〇ニ至リ聯合艦隊ハ第五艦隊ヲ基幹トスル牽制部隊ヲ
残レテ内地ニ帰還再燃ヲ圖ルコトナリタルヲ以テ聯合艦隊機密
第三三三三四番電）先遣部隊ハ之ニ應ジ経度ハ台度線ニ待敵

スルコトトシテ(先遣部隊電令作第(九)號)其間第(三)潜水隊
ヲ以テ漂流中ノ飛龍ノ搜索處カニ當ラシメタルモ遂ニ之ヲ見
見レ得ザリキ(先遣部隊電令作第(九)號)五潜水隊隊長第(五)一
番電

(二) 東方掃航

十(三)日(至)リ先遣部隊指揮官ノ敵艦ヲ散開線ノ東方在
ルノ事大ナリト認メ各艦ニ東方掃航ノ命令ヲ發シ且レ伊
第(五)潜水隊ノ燃料ノ關係上ノ左ジエリンニ掃航セシメ第(三)潜
水隊ハ現配備ニ於テ哨戒コトトセリ(先遣部隊電令作第(九)號)
依テ第(三)潜水隊ノ東方掃航レテ十(三)日夕刻大々
以テ散開線ニ到達シタルモ(五)潜水隊隊長第(五)三番電、三潜水隊
第(三)七番電)遂ニ目標ヲ見レ得ザリキ
(ホ) 散開配備ノ撤去

十四日主力部隊内地帰着し牽制部隊は解隊せられたる
 以て先遣部隊指揮官は第三第五潜水隊隊員を左に任じて
 又命じて先遣部隊常任隊員第三號隊員第五潜水隊隊員
 指揮官指定は改メラレタリ(六艦隊司令部第八番電)
 以上は作戦に於て先遣部隊ヲ迎ジヨリ第六潜水隊外
 敵ヲ襲撃シ得タルモノナク又同艦外敵に依リ損害ヲ受
 ヘラレタルモノナシ

七各艦ノ経過概要
 の第三潜水隊

六月三日午後(伊號第六潜水隊ハ五日午後)乙敷間線
 到着し後命ノ通行動R₂敵間線ニ至ルハ九日一七四〇伊號中
 百六十二潜水艦が北緯三〇度〇分西経一七七度四〇分ニ於テ駆逐

15

艦隻ノ制圧ヲ受ケテ約四時間半潜水艦トシテ外敵ヲ見ズ

十日以後五潜水艦機密第五二番雷液ノ飛龍搜索ニ努メ

モ發見スルニ至ラズ R 散開線ニ復シ機ノモナクシテハ散開線

ニ向テ掃航、伊號第百六十二潜水艦ガ十四日〇九三駆逐艦

一隻ヲ認メタル外敵ヲ見ズ向散開線到着、浪帰投ヲ令

セラル、伊號第百六十五、百六十六潜水艦ハ返世休帰投可能

ナリレラ以テ直接之ニ面航、伊號第百六十二潜水艦ハ燃料ニ

不安アリシ爲メ左ジエリンニ帰投セシム、五機機密第五二四、

五二八番電

(四) 第十一潜水隊

尙由日日出頭ニ散開線ニ到着、尔後命ノ通行勅九日度

R 散開線ニ至ル、且レ伊號第百五十九潜水艦ハ、イノエエリンニ

出港遅レタルヲ以テ六日三〇、丙散開線ニ於テ配備ニ加リ

又伊號第一五七潜水艦ハ電報、錯誤ニ依リ丙ニ散開線
 ハ移動開始時轉ラ七日。四。迄遅延セリ
 此間六日。二五五伊號第一五六潜水艦ハ敵輸送船ヲ発見シ
 シルモ遠距離ヲ為攻撃ノ機會ナク（同艦機密第一五六番電）
 番電）又伊號第一五九潜水艦ハ七日午前水中ニ於テ爆発
 音ヲ聞キシルモ何物ヲモ認メザリキ
 十日以後各艦所定ノ通掃航線敵從事トシ。一〇。伊
 號第一五八潜水艦ガ漂泊中敵潜水艦ヲ認メシルモ潜水艦セラ
 レテ襲撃ノ機會ヲ逸シタト（同艦機密第一五六番電）十四日
 伊號第一五六、一五七潜水艦ガ飛行艇又ハ油跡（敵航空艦
 油漬ノ位置）ト推定セラレラ認メタル外敵情ヲ得ズ、伊號第一
 一五八潜水艦ハ十三日夕刻其他ノ各艦ハ十五日夕刻至リ
 右左ニシテ帰投ヲ命ゼラレ司令指揮ノ下ニ回航セリ

リあで志やわろ丸

「左」に送る飛回レ潜水艦補給整備ニ任ズ終始敵見
司令官部ノ指揮ヲリあで志やわろ丸通信能力不足ノ関係上
南初陸上基地隊ヲ利用シ第六通信隊ニ依存スルコトヲ考
慮セシガ居住施設各部トノ連絡等極メテ不便トナルヲ以テ
先遣部隊旗艦ヲ取テ短艇連絡及第六通信隊ヨリノ
近距離通信系ニ依ル中継トヲ活用レテリあで志やわろ丸ニ於
テ無線スルコトトシテ圖滑ニ實施セリ

八内地帰還

潜水隊帰還決定スルヤ直ニ聯合艦隊司令部對シテ期作
戦爲ニ整備根據地ニ對シテ指示ヲ仰グト共ニ（五陸戦艦）第五六

艦	名	カゼエリン着	同上	發	内地帰着
伊一五八	六十九日〇五三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇
〃	一五六	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇
〃	一五七	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇
〃	一五九	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇
〃	一六一	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇	六月二十日〇三三〇

番連(伊號)第六五八六潜水艦、前記通報取敢不は毎味
 回航セシムルコトトシ其他各艦ハカゼエリンニ帰投セシメタリ
 カゼエリンニ於テハ整備補給ノ外戦隊内及先遣部隊内ノ
 作戦研究會ヲ行ヒタリ
 聯合艦隊ヨリノ回答ハ六月二十日カゼエリンニ到着セザリシヲ以テ各潜水
 艦隊各弟番番電ノ通所屬軍港ニ回航セシムルコトトシ各艦ハ
 尤ノ通帰投セリ

17

リあて志やぬう丸

七月二日。八〇。

回航中伊號第六五、六六潜水艦ハ平五日日本州南方ニ遭難
 セル第二回南丸救援ヲ命ゼラレシガ回航燃料不足ノ為取手
 ラル聯合艦隊機密第四四九、四四番艦ニ潜水機密第九番艦
 伊號第六六、六九潜水艦ハ當初リあて志やぬう丸ト行動ヲ共
 ニセレガリ亦ア志やぬう丸速力不足ニシテ入港可達ル虞アリシ
 タメニ八日分離先行セシメタリ

伊號第六六潜水艦ハ其ノ後何等ノ手懸ナク全ク絶望ト認
 メラレタルヲ以テ七月三日五時戰機密第五五八番艦ヲ以テ沈没
 認定ノ手續ヲ執レリ、同艦ハ本港前潜水艦長交代シタル
 モ乗員大部ハ残留シ練度ハ高度ニ保持シ得タルモノト認め
 ラルヲ以テ恐ラクハ事故ニ依ルモノニ非ズレテ敵トノ交戦ニ依リ
 損害ヲ受ケタルモノナルベク又沈没ニ際レ何等無線ヲ發信シ

北 解 隊

居ラザル兵ヨリ推察シ潜水艇中ナリレモト判断ス

七月日附大海戦察知西四番艦ニ依リ第五潜水艇隊解隊
第一潜水艇隊伊號第一潜水艇及リ亦デ志ヤウ丸ハ南西方
面艦隊附屬ニ第一九潜水艇ハ吳鎮守府部隊ニ編入ノト
ニ手続中ナル旨ノ通報アリ

依テ七月六日本職聯合艦隊司令部長官頭任務報告ヲ行
フト共ニ解隊ニ關聯スル諸般ノ準備ヲ行ハシメ十日一三三〇
リ亦デ志ヤウ丸ヨリ將旗ヲ撤去セリ

第四、戦果及兵力ノ現状

一、敵兵力與タル有形的損害ナシ
 二、伊號第六十四潜水艇消息不明ナル外敵依リ損害ヲ與ヘラレタルモノナシ
 三、今次作戦期間中行動ニ依リ破損レ修理ヲ要スル者ナルモノ尤、如シ

欠損事項	艦名
重油タンクノ漏洩	伊五六、一五八、一五九、一六五、一六六
主水缶金氏果漏洩又ハ船附装置不具合	伊二五六、一五八、一五九、一六六
水中聴音捕音器	伊二五六、一六六
推進器翼一那欠損	伊二六五
安式三號縦針儀全部追従不良	伊二五六